

市政に関する地域座談会実施報告書

◇平成23年度 第3回（通算56回） 留場地区

開催日時	平成23年11月10日（木）午後7時30分～午後9時5分		
会場	留場公民館	出席者数	34人 (男22・女12)
地域座談会の内容（市長講話・質疑応答の内容等）			
<p>【市長講話】 新第5次寒河江市振興計画重点プロジェクトの進捗状況についての「市民100人評価委員会」による評価内容をはじめ、本市の財政状況、公共施設の耐震化事業の状況と市庁舎の耐震化工事など、市政の概況について30分程度説明。</p> <p><質疑応答></p> <p>問① お蔭様で、留場地区は公民館や大堰、取付け道路などここ10年で大きな事業は終わっていただいている。細かいところでは、多雪地帯で融雪など大変なところなので、側溝整備について昨年に続いて今年もやっていただけるということでもよろしくお願ひしたい。また、高齢化が進み高齢者の一人暮らし世帯も増えている。さらに、町場への転出により戸数が減り、空き家が増えているが、何とか解決策はないものか。</p> <p>【答】 側溝整備は昨年度5箇所実施しており、これですべて解決するのかわからないが、不都合な所などあれば教えていただいで、一つずつ解決していくしかないのかと思う。</p> <p>元気なお年寄りがいるということは悪いことではない。ただ一人暮らし老人が増えると災害時等、いざという時に見守れない。その体制整備が必要だが、行政の力だけでは何ともならないところがあるので、民生児童委員の方や地域の皆さんの力を借りて、ネットワーク化していく必要がある。市内には民生児童委員が90名ほどいるが、今年からは、これ以外にもサポートしてくれる人(地域福祉推進委員)をお願いしたり、安全安心カードを配布して活用させていただいている。ただ、プライバシーの問題もあり、一人ひとりの理解が必要なので時間をかけて理解を深めていくことが大切である。元気な方にはサロン事業に参加していただき、さらに充実させていきたい。</p> <p>集落の維持については、留場、幸生、田代などその“良さ”を拡大していくことが必要である。田代・幸生には、夏休みに東京あたりの大学生が来ているといった状況もあるのでその辺を拡大していけないか。天童市あたりでは、空いた民家を宮城県等の方へ提供しようといった事業を考えているようだ。そういうことも考えながら、外部の人を受け入れる条件づくりも必要である。例えば、留場地区等で、そういった事業に実験的に取り組むことも可能であればお願ひしたい。</p>			

地域いきいき元気づくり事業等も活用していただきながら、一緒になって知恵を出していきたい。

問② 留場は現在 57 世帯で、建物を置いたまま移転してしまっている人が多く、管理にも困っている。管理している町会などに年貢（負担金）を納めるよう、市で決めているところなどないのか。部落で決めることだとは思いますが市ではどう考えるか。

【答】 そういったことについては、今は決めてはいない。町会での負担が本当に大変になった場合は、市でも相談に乗らなければならないと思う。

空き家については、他の自治体では手直しをして、土日だけ農作業をする場として町場の人に貸したり、リタイヤした方に第 2 の棲家として貸したりしており、まとまった単位でそういったところに紹介できるのであれば考えても良いと思う。

もちろん、田代・幸生を含めてこれからいろいろ検討していく必要がある。

今後、10～20年後には今と逆の現象が起きて、このような中山間地に人が戻ってくるとも言われている。そのための環境整備等についても考えて行かなければならないと思う。

問③ 空き家の場合、雪降ろしがなくなってないところがあり危険である。また、高齢者の一人暮らしの家が 1 3 軒あり、雪降ろしについては万が一の時のことを考えると大変である。

【答】 そういった一人暮らし高齢者世帯への雪降ろし支援はありますね。誰も住んでないところについては支援はありませんが、何か考えないといけないと思うが自力で行っている人と不公平感が出ると困るので、その辺も考えなければならない。所有権のこともある。

空き家の雪降ろしなどの状況について、町会長さんどうですかね。

(町会長)それほど逼迫した状態までにはなっていないと思う。7年前の豪雪時は別でしたが、一人暮らしの世帯は息子さんが来て雪降ろししたりとか、何とか対応しているようです。

問④ 留場バイパスは、いい面と悪い面がある。バイパスができてから部落内を通る道が市道になったので、大雪でも除雪が 1 回しか来なくなった。この辺は山間部で平野部とは雪の量が違う。昨年のような大雪の場合は、市で状況確認して 2 回来るとか考えてほしい。

【答】 以前は市の職員が除雪出動していたが、現在は除雪協力会(民間事業者)にお願いしている。そこで地域の雪量を判断して、3時半から出動して出勤前に除雪をしてもらっており、昔よりは地域に対応した形になっていると思うが、これから除雪協力会と話をする機会もあるので、きめ細かにしてもらおうようお願いしておく。

問④一(1) 以前は積雪 1 5 c m で除雪出動してたようだが、現在は何 c m か。

【答】 今は 10cm です。

問④ー(2) 除雪協力隊に聞いたら、市の命令で出動してると言っていたが。

【答】 そこは違うと思うが、今は業者をお願いしているが、その辺、徹底なっていないとすれば徹底します。昨年から、通勤時間に間に合わせるために30分早めてもらった。

【答】 (総務課長)

ー昨年から業者に降雪量を計測してもらって、地域ごとに自主出動しており、ここは宮内の建設会社をお願いしている。楳津建設さんと計測して白岩地区一斉に出動するようになっている。ただ、3:30の計測時には少量で、5:00ころから降り始めるといった場合もある。昨年は圧雪状態になったが、そのところは課題と捉えている。

【答】 宮内と留場では雪の量が違うこともあるので、その辺、宮内の建設会社に地域の皆さんから強い要望があったことを伝えておきます。

問⑤ デマンドタクシー利用可能区域から留場地区が外れているが、バス停から2km以上あるので入れてほしい。

【答】 (政策推進課長)

デマンドタクシーについては、山交バスの路線と競合しないように協議が必要で、運行範囲はバス停から直線で半径500mで測定している。なおかつ、地域を分断しないという条件があるので、測定すると留場の中ほどに境界がきて地区内を分断してしまうことになる。その意味で、今回の実験運行からは外させてもらった。

【答】 今は実験運行なので、まずは、来年10月までやってみてということになる。バス路線と競合するところはなかなか難しいが、なるべく拡大していきたい。

【答】 (政策推進課長)

既存のバス路線と競合してはいけないという国の要件がある。今回は外したが何とかしていきたい。

【答】 最初から国と揉めるとなかなか事業が進まなくなる。まずは実験運行して、来年皆さんの要望を持っていきたいので、よろしく願いしたい。

このデマンドタクシーは、高齢者だけでなく若い人でも利用できますので、是非利用いただきたい。

問⑥ 前の話になるが、バイパスからの取り付け道路は当初3本という話だったが、1本付いたがあとの2本はどうなるのか。付けてもらわないと不便だし、危険でもあるので考えてほしい。

【答】 町会の方でもご検討いただいていると思いますが、どうですかね。

<町会長> 当初は3本で要望していたが、一番は予算がないということで、1本で落ち着いたと先輩方からきいていますが。

問⑥—(1) この要望はまだ、終わっていない。市が裕福になったら実現してもらおうことで、これからもお願いしていきたい。1本付けてもらうのでも大変だった。1本付けてもらって便利になったが、もう1カ所は急こう配で危険。

【答】 事情は分かりました。その辺、考えさせていただきたい。町会の方でも町会長さんを通して相談させていただきたい。

問⑦ 山林についてだが、白岩地区の人で共有している山林が何十町歩もある。年貢を市に一人1,500円ほどを約30人で納めている。全体で約70万円位納めている。この共有財産について何とかしたいが、地区内にいない人などもおり手のつけようがない。寄附もできないし困っている。市で貰ってもらうのが一番いいが。何かいい方法はないか。

【答】 ハンコも貰えないということは寄附もできないということですよ。共有林についてはここだけの問題でなく、いろんなところにあるケースだと思うので、我々としても勉強させてもらって検討させていただきたい。時間をいただきたい。

問⑧ 大堰の役員をしています。14町歩の面積で18名と年々耕作者が減ってきて田が荒れてきている。先行きが不安である。市として平野部と中山間地の農業の対応の違いについて、今後、どう考えるのか。

【答】 平地と中山間地では、野菜や果物等の収穫時期のずれが、1つのメリットにもなり高原野菜などブランド化になりつつあることなどもある。市全体の農業の普及から考えると残していきたいが、高齢化による後継者問題等、いろいろ問題があるので、知恵を出していかなければならない。中山間地にはいろいろ支援をしていかなければならないと思うが、ギリギリのところにきていると思う。一番の問題は人の問題なので、少々の補助金などでは難しいところである。

しかしながら、田代、幸生では、都会のデパートなどのバイヤーからの引きなどもあるようです。韓国のロッテデパートや大阪の阪神百貨店等が幸生あたりに見に来ているようです。耕作者もメリットのあるものを作る工夫が必要で、生き残るには知恵を出して努力しなければならない。

そういう面では行政としても今まで以上に支援していきたい。

問⑧—(1) ただ、担い手がない。今の人が耕作をやめたら誰もなくなる。

【答】 それが問題。抜本的な問題です。ただ、魅力という点では、将来性の高い地域と言えるので、PRがまだまだ必要。

問⑨ 下水道は西部地区に来ない。高松、醍醐あたりでは合併浄化槽はどのくらい利用しているのか。予算（補助金）はどのくらい使っているのか。また、これから市で進める浄化槽設置の基準や合併浄化槽利用者がそちら

に切り替える場合などについて教えていただきたい。

【答】 本日配付している資料に載せているのは、これからやろうとしている市町村設置型のものです。これから市町村設置型の浄化槽を市の方で進めていくが、公共下水道と同じように使用料を納めていただく形になる。こういった説明は聞いていますよね。

問⑨ー(1) 前回の説明では、市設置型への移行基準が高くて、今現在、設置している浄化槽のほとんどが市の基準から外れる。おそらく5年くらい前の物は無理のようでした。

【答】 これまでと同じように使用して、耐用年数が来てから、市設置型に切り替えるという方法もある。合併浄化槽が耐用年数経過した時、市設置型に切り替えた方がよいのかどうかなどを含めて、後日回答させていただきたい。